



## 枚方市香里ヶ丘

第17回

## 旧陸軍香里製造所煙突跡



京阪電車光善寺駅からバスに乗り、小高い丘をめざすと、広々と整備された香里団地がある。この団地の妙見山配水池に、高い煙突があらわれる。19.9メートルもあるこの煙突は、旧陸軍香里製造所の跡である。

香里製造所は、京都の宇治火薬製造所から運ばれてきた湿った火薬をスチーム熱で乾燥させる工場で、一時は日本一の火薬工場になったという。このあたりには、戦争当時、枚方製造所もあり、その火薬を貯蔵する禁野火薬庫がおかれて、火薬を輸送する軍用鉄道の引き込み線がつけられるなど、一大火薬工場地帯であった。

1939（昭和14）年3月1日に禁野火薬庫が大爆発をおこし、死者94名、負傷者602人の大惨事になった（陸軍資料）。枚方市は、この3月1日を「枚方市平和の日」と定めている。

香里製造所は戦後に閉鎖されたが、朝鮮戦争の特需で再び火薬製造が復活されようとした。これに対して市民が反対運動を行い、市議会でも「火薬製造反対決議」がなされるに至った。これにより火薬工場は断念され、その跡地がニュータウン香里団地に生まれ変わった。

1982（昭和57）年に、枚方市は府内の自治体に先がけ「非核平和都市宣言」を行い、1984（昭和59）年に、「不戦と平和」のシンボルとして香里製造所の煙突を保存することにした。また、市内には、香里製造



所跡を示す「陸軍用地」の石柱（香里ヶ丘2丁目）、禁野火薬庫跡の土塁（上野2丁目、中宮第4団地、表紙写真）、軍用鉄道をふりかえる中宮平和ロード（中宮本町から中宮西の町）などがある。

今も残る高い煙突は、戦争に突き進む人間の姿とそれによる大きな犠牲を見てきた。また、再び戦争に協力しようとしたことを阻止した人間の姿も見てきた。そして、今も人間を上からにらみつづけている。煙突の下には「煙突に寄せて平和を誓う」とのプレートがあり、「あらためて平和のモニュメントとして守り続ける」と結ばれている。（香里ヶ丘8丁目、京阪バス「八丁目北」前）

## 「赤ちゃんから大人まで」

藤井寺市小学二年(当時)

塩尻奈海

赤ちゃんから  
大人  
お年よりまで  
たくさんの中の  
わたしは いる  
なっている人を見ると  
どうしたの？  
わらっている人を見ると  
たのしそう  
しんどそうにしている人を見ると  
だいじょうぶ？  
と声をかけたくなる  
足のふじゆうな  
お年よりを見ると  
手をつないであげようと思う  
わたしも小さいころは  
手をつないでもらっていたように  
一人では さみしい  
二人いると うれしい  
三人いると もっとうれしい  
たくさんいるほうが  
たのしいし うれしい  
人ってすばらしいと思う  
人って大せつだと思う

2006年度人権啓発詩 読書感想文募集事業  
（大阪府大阪府教育委員会 愛ネット大阪・財大阪府人権協会）の入選作品より

2007(平成19)年6月発行

この情報誌は20,000部作成し、1部あたりの単価は39円です。

発行／大阪府政策企画部人権室

編集／財団法人大阪府人権協会

〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目  
TEL.06-6941-0351 FAX.06-6944-6616  
http://www.pref.osaka.jp/jinken/

〒556-0028 大阪市浪速区久保吉1-6-12  
TEL.06-6568-2983 FAX.06-6568-2985  
http://www.jinken-osaka.jp



「そうぞう」とは

人権尊重社会を実現するためには、さまざまな偏見や差別を受けている人の状況・気持ちを「想像」することと、豊かな人権文化を「創造」することが必要です。この情報誌がこれらの「そうぞう」につながるように一そんな思いが込められています。